

KANSAI ウォーク 2013

第2回 奈良・斑鳩エリア

聖徳太子ゆかりの地を巡る

コースマップ

ファミリーコース (約8km)

スタート/A. 斑鳩町営法隆寺観光自動車駐車場 ▶ B. 吉田寺 ▶ C. 龍田の街並み・龍田神社 ▶ D. 藤ノ木古墳 ▶ E. 法隆寺 ▶ F. 中宮寺 ▶ G. 中宮寺宮墓 ▶ H. 法輪寺 ▶ I. 法起寺 ▶ A. 斑鳩町営法隆寺観光自動車駐車場

スペシャルコース (約17km)

スタート/1. 斑鳩町営法隆寺観光自動車駐車場 ▶ 2. 吉田寺 ▶ 3. 龍田の街並み・龍田神社 ▶ 4. 藤ノ木古墳 ▶ 5. 法隆寺 ▶ 6. 中宮寺 ▶ 7. 中宮寺宮墓 ▶ 8. 法輪寺 ▶ 9. 法起寺 ▶ 10. 小泉城 ▶ 11. 慈光院 ▶ 12. 上宮遺跡公園 ▶ 1. 斑鳩町営法隆寺観光自動車駐車場

→ スペシャルコース
→ ファミリーコース



主催/産経新聞社

今日を愛する。

特別協賛/**LION**

www.kansai-walk.jp

両コースとも、午後1時から午後4時までにゴールしてください。KANSAIウォークパスポートにチェックを受けてください。

後援/奈良県、奈良県教育委員会、斑鳩町、一般社団法人斑鳩町観光協会

【マップ制作・運営・デザイン】
(株)ムーヴエンタテインメント
【コース企画・監修】
大阪城天守閣研究主幹/北川 央

大会の途中で棄権したり、救護を要するときは…
大会本部 (Central Site)・救護 (First Aid)
TEL/070-5262-2501

※この電話は、大会当日のみ有効です。

ガイド協力/斑鳩の里観光ボランティアの会

企画運営/ムーヴエンタテインメント

奈良・斑鳩エリア いかるが 聖徳太子ゆかりの地を巡る コースの見所

【コース企画・監修】大阪城天守閣研究主幹/北川 央

B. 2. 吉田寺 きちでんじ ※ガイドあり



清水山を山号とする浄土宗寺院。天智天皇の勅願により創建されたと伝えられ、本堂の西側には妹の間人（はしひと）皇女の墳墓とされる古墳がある。永延元年（987年）に改めて恵心僧都源信が寺を創建したという。恵心僧都が、母の臨終に際し、祈願した衣服を着せかけるとなんの苦しみもなく往生したといわれることから『ぼっくり寺』と通称され、それにあやかりたいと願う多くの人々の信仰を集める。本尊の阿弥陀坐像（像高515cm）は丈六の金色、木造で奈良県下最大。千体仏の光背を持ち、国の重要文化財に指定される。境内の多宝塔は室町時代の建築で、1辺3m余りの小塔。やはり重要文化財になっている。内部には大日如来像が安置されるが、秘仏で普段は非公開。

D. 4. 藤ノ木古墳 ※ガイドあり



法隆寺に残る記録には、『ミササキ』『ミササキ山』と記されており、崇峻天皇陵と記すものもある。その後、発掘調査が進むに従い、斑鳩地方に勢力を持ったと思われる物部氏、蘇我氏、平群氏等の墳墓ではないかとする諸説が提示されているが、いずれも定説にはなっていない。直径50m以上、高さ9mの円墳で、出土品から六世紀後半に築造されたと考えられている。横穴式石室内の調査が行われ、玄室内には奥壁に接近して、奥壁と平行する形で、長辺を東西にした家形石棺がおかれており、未盗掘であることがわかった。石棺は二上山白色凝灰岩が使われており、全面に朱が塗布されていた。石室内には石棺北側から馬具などと一纏めに、東枕にした2体の被葬者が確認され、鏡や刀など豪華な副葬品も確認された。いずれも東アジアでもまれにみる優れた意匠や彫金技術を施したもので、平成16年（2004年）国宝に指定された。現在は奈良県立橿原考古学研究所附属博物館で展示・保管されている。

G. 7. 中宮寺宮墓 きゅうぼ



伏見宮貞敬親王女・成淳女王の6つの墓と、後西天皇の供養塔がある。

尊智女王以来、中宮寺に入った歴代皇女・王女の墓所で、宮内庁が管理する。伏見宮貞敦親王女・尊智女王、伏見宮邦房親王女・尊覺女王、後西天皇皇女・高榮女王、有栖川宮職仁親王女・榮恕女王、有栖川宮織仁親王女・榮暉女王、伏見宮貞敬親王女・成淳女王の6つの墓と、後西天皇の供養塔がある。

10. 小泉城



小泉城の築城年代は定かではないが、室町時代に大和国の国人である小泉氏が築城したと考えられている。慶長20年（1615年）の大坂夏の陣の後は、片桐且元の弟・片桐貞隆が入封し、元和9年（1623年）、貞隆は小泉城跡に陣屋を構えた。以後、片桐氏が11代続き明治に入る。2代藩主・片桐石見守貞昌は、茶人「片桐石州」として有名で、茶道石州流の祖。城（陣屋）跡の北西部の一部は、今も茶道石州流の家元片桐氏宅（高林庵）となっている。その南側の『薙刀池』はかつての堀で、この池の内側に二層の櫓などが復興されている。薙刀池の東にある『お庭池』も、やはりかつての堀である。

C. 3. 龍田の街並み



『龍田』は古く万葉集にも登場する地名。万葉集に記される『龍田越え』は、大和と河内を結ぶ道で、法隆寺の南から龍田大社（本宮）の前を通り、大和川北岸の龍田山を越えて河内へと抜ける道である。平城京遷都後は竹内越えに代わって、平城京と難波（なにわ）を結ぶ幹道となった。中世に入っても交通の要衝で、龍田市が開かれて賑わい、近世には大坂と奈良を結ぶ奈良街道が通じた。旧奈良街道沿いの龍田一丁目から四丁目にかけては伝統的な街並みが展開する。写真は、旧街道の西側入口に明治2年（1869年）から続く地酒と奈良漬で有名な太田酒造の外観。

E. 5. 法隆寺



聖徳宗の総本山で、金堂や五重塔など、世界最古の木造建築が建ち並ぶ。斑鳩（いかるが）の地に法隆寺が建立されたのは推古天皇15年（607年）のことで、亡くなった用明天皇の遺志を継いで、推古天皇と聖徳太子が、薬師像を祀る斑鳩寺（現法隆寺）を建てたことが始まりとされている。しかし最初の法隆寺は、創建から64年後の天智天皇9年（670年）に火災で焼失したと日本書紀に記されており、現在の法隆寺は672年から689年にかけて再建されたものと考えられている。法隆寺は金堂・五重塔を中心とする西院と、夢殿を中心とする東院の二つの寺域に分かれ、全体の敷地面積は18万7千平方メートルにも及ぶ。19棟の国宝建築物をはじめ、国宝・重要文化財に指定されたものだけでも約190件、点数になると2300点を超える。平成5年（1993年）12月にユネスコ世界文化遺産に登録された。

H. 8. 法輪寺



創建については、二つの説がある。一つは推古天皇30年（622年）に聖徳太子が自らの病氣平癒を祈願して建立を發願、その子山背大兄皇子と孫の由義王が建立したという説で、もう一つは、天智9年（670年）の斑鳩寺炎上後に百濟の開法師・円明法師・下氷新物が合力して建立したという説である。法隆寺、法起寺とともに斑鳩三塔と呼ばれた法輪寺の三重塔は、昭和19年（1944年）に落雷で焼失し、現在の塔は、作家の幸田文氏らの尽力により、昭和50年（1975年）に再建されたものである。発掘調査の結果、創建当初の法輪寺は、法隆寺西院伽藍と同じ伽藍配置で、約3分の2の規模であることが明らかになった。飛鳥時代に造られた薬師寺如来像・虚空蔵菩薩像の他、平安時代の弥勒菩薩像・吉祥天女像・地藏菩薩像など、多くの仏像が国の重要文化財に指定されている。三井寺・御井寺の別名でも呼ばれる。

11. 慈光院 じこういん



寛文3年（1663年）大和小泉藩二代目藩主の片桐石見守貞昌（石州）が、初代藩主である父貞隆の菩提寺として建立した臨済宗大徳寺派の寺院。境内全体が一つの茶席として造られている。書院・茶室は国の重要文化財、庭園は国の史跡・名勝となっている。独特の風情を醸し出す山門は、かつて片桐家の居城であった摂津茨木城の楼門を移築したもの。

C. 3. 龍田神社



聖徳太子が法隆寺の建設地を探し求めていた時に、白髪の老人に化身した龍田大明神に逢い、『斑鳩の里こそが仏法興隆の地である。私はその守護神となろう』と告げられたので、斑鳩の地に法隆寺を建立し、龍田大社（三郷町立野）では遠いので、新たに龍田神社を創建して鎮守社にしたと伝えられる。龍田大社を『本宮』と呼ぶのに対し、こちらは『新宮』と呼ばれる。明治の神仏分離により法隆寺から離れた。能楽『金剛流』の源流坂戸座の発祥の地で、境内に『発祥之地』の碑がある。

F. 6. 中宮寺 ちゅうぐうじ



創建当初は現在の場所から東へ500m付近にあったが、室町時代に現在の夢殿の東側に移った。聖徳太子が母の穴穂部間人（あなほへのはしひと）皇女のために建立したと伝えられている。太子が住んだ斑鳩宮・岡本宮・葦垣宮の中間にあたるころから『中宮寺』と呼ばれたという。天文年中（1532～55）に伏見宮貞敦親王の王女である尊智女王が入寺して以来、門跡（もんぜき）寺院となり、歴代皇女・王女が入寺した。法華寺・円照寺とともに大和三門跡尼寺に数えられる。本堂には、国宝の木造菩薩半跏像が安置され、寺伝では如意輪観音とするが、本来は弥勒菩薩として造立されたと考えられる。また、国宝の天寿国繡帳（てんじゅこくしゅうちょう）は、聖徳太子の母、穴穂部間人皇女と聖徳太子の死去を悼んで王妃橘大郎女（たちばなののおいらつめ）が、天寿国に往生した様子を刺繍させたもの。

I. 9. 法起寺 ほうきじ



推古天皇14年（606年）に聖徳太子が法華経を講説したという岡本宮を寺に改めたものと伝えられ、岡本尼寺・岡本寺・池後尼寺・池後寺の別名でも呼ばれる。法隆寺、四天王寺、中宮寺などとともに太子御建立七力寺の一つ。中門を入ると右に三重塔、左に金堂が建つ。法隆寺西院伽藍とは左右が逆で、法起寺式伽藍配置と呼ばれる。創建当初から残る建物は三重塔のみ。飛鳥様式の三重塔は、三重塔としてはわが国最古で最大。国宝に指定され、ユネスコの世界文化遺産にも登録されている。収蔵庫内には重要文化財の十一面観音菩薩像が安置される。

12. 上宮遺跡公園 かみや ※ガイドあり



奈良時代の大規模な建物群跡が見つかった遺跡。聖徳太子が最愛の妻・膳菩提美郎女（かしわでのほききみのいらつめ）とともに晩年を過ごした『飽波葦垣宮（あくなみあしがきのみや）』が、この付近にあったとされる。この辺りの字名を「上宮（かみや）」というが、聖徳太子一族を上宮王家（じょうぐうおうけ）と呼ぶことにちなむとされる。近くには太子ゆかりの成福寺跡もある。見つかった奈良時代の建物群は称徳天皇が行幸の際に利用した『飽波宮』であるという説が有力。

こどもクイズ



中学生以下のお子様対象のクイズです。

クイズに答えて記念品をもらおう!

問題

大阪・太子町の公式マスコットキャラクター『たいしくん』は、誰をモチーフにしているでしょうか？



ひみこ
A: 卑弥呼

なかとみのかまたり
B: 中臣鎌足

しょうとくたいし
C: 聖徳太子

答え

